

令和5年度
こころ医療福祉専門学校
学校自己評価結果報告書

令和6年4月1日

令和6年1月31日（水）令和5年度学生・教職員アンケート実施
令和6年2月19日（月）令和6年度学校経営目標 運営会議議題提出
令和6年3月4日（月）令和5年度学校自己評価報告書 運営会議提出
令和6年3月15日（金）学校自己評価報告書 本部提出

※教職員・学生アンケートと学校自己評価との連動基準

教職員・学生アンケート評価基準3.1～4.0 → 学校自己評価「4」

教職員・学生アンケート評価基準2.1～3.0 → 学校自己評価「3」

教職員・学生アンケート評価基準1.1～2.0 → 学校自己評価「2」

文部科学省・専修学校における学校評価ガイドライン
（平成25年）準拠

1. 学校の教育目標 令和5年度

- 1 ビジョン
地域の医療・福祉を包括的に支援できる組織になる
- 2 ビジョンの実現に向けたテーマ
地域社会から必要とされる組織であり続ける
地域社会から必要とされる人材を提供する
- 3 学校経営スローガン
各学科の「専門力を含めた人間としての総合力の育成」
- 4 重点教育目標
(1)授業の充実と国家試験合格率及び就職率の100%の達成
(2)社会人基礎力を身につけさせ、自立する職業人・社会人の育成
(3)留学生教育の充実と基本的生活習慣の確立
(4)「個人自己評価」と「学校自己評価」による人材育成と学校活性化
(5)学園体制として取り組む学生募集－130名以上の学生確保
- 5 具体的な対策
(1)「授業の充実」を通じた「教育の質」の向上
(2)自立する職業人への準備教育の推進
(3)退学者・不登校生の減少対策の推進
(4)国家試験・進路指導の充実
(5)留学生教育の質の向上
(6)「個人自己評価制」の導入による学校活性化
(7)「130名以上の学生募集」－各学科「+10名」の達成
- 6 地域社会等との豊かな関係づくり
(1)「地域の医療・福祉を包括的に支援できる組織になる」の具現化
(学園グループビジョン)
(2)関係各校、機関、施設等との連携強化

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- (1)授業の充実と国家試験合格率及び就職率の100%の達成
- (2)社会人基礎力を身につけさせ、自立する職業人・社会人の育成
- (3)留学生教育の充実と基本的生活習慣の確立
- (4)「個人自己評価」と「学校自己評価」による人材育成と学校活性化
- (5)学園体制として取り組む学生募集－130名以上の学生確保

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか。 (専門分野の特性が明確になっているか)	4	3	2	1	学校の理念は、学生便覧等にも掲載され明確である。「等しく可能性を信じ」、「専門分野の深い知識」のみならず、「誠実、気力、知恵と行動力」を育むことで「社会に貢献」する姿勢は専門学校の理念として相応しく、人格と専門分野での知識・技能を備えた信頼される人材を輩出することで社会に貢献することが目的である。 【教職員アンケート 質問1 3.4】(3.4)
・学校における職業教育の特色は何か。	4	3	2	1	各学科とも専門的な経験を積んだ専任教員を中心に、各業界との連携を重視し、理論と実践のバランスのとれた教育を実施している。各業界の現場で活躍する非常勤講師を豊富に揃え、学生に適切な現場実習の機会を提供するよう努めている。 【教職員アンケート 質問2 3.0】(2.9)
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか。	4	3	2	1	今後、さらに進行する少子高齢化に備え、老人福祉施設、医療機関や地域社会との密接な連携を推進し、社会のニーズに合った将来を見通した学校経営をしている。 【教職員アンケート 質問3 3.2】(3.1)
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか。	4	3	2	1	オープンキャンパス等の入学前ガイダンスを通じて、また、入学後も保護者説明会、オリエンテーション、定期的校内広報紙、HPでの情報公開等を通じて、繰り返し周知を図っている。全校生に対する学生アンケートを利用して、周知状況は確認している。 【教職員アンケート 質問4 2.6】(2.8) 【学生アンケート 質問1 2.8】(2.8)
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。	4	3	2	1	職業実践専門課程の運営にあたり、各学科と関連業界との情報交換は年間を通じての分科会も設定するなど、年々充実しており、将来的な業界のニーズに対する理解も深まっている。卒業生が将来的な業界のニーズにも応えられるように、各学科ごとのディプロマポリシーを定めている。 【教職員アンケート 質問5 3.2】(3.1)

①課題

「学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか」について悪化している。

②今後の改善方策

校舎内やココガクに掲示し日常的に周知を行う。
保護者へ学生便覧の送付を行い周知の機会を増やす。

③特記事項

特になし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(2) 学校運営

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・目的等に沿った運営方針が策定されているか。	4	3	2	1	地域の医療・福祉を包括的に支援できる教育機関として成長するという岩永学園グループの目的を実現するため、グループ内の社会福祉施設はもちろん、地域の病院、福祉施設、整骨院等の業界との連携を密にし、より実践的な教育を目指した運営方針が策定されている。
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか。	4	3	2	1	事業計画は、地域の医療・福祉を包括的に支援できる教育機関となるという学校の運営方針に沿って、毎年度初めに2年、3年後までの見直しをもった具体的な事業計画が示されている。
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか。	4	3	2	1	学校運営方針に基づき、各種委員会組織を設置し、定期的な部課長・学科長会議および職員会議を開催し、具体的な活動計画を定め、実行している。
・人事、給与に関する規定等は整備されているか。	4	3	2	1	就業規則により明確に定められている。
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか。	4	3	2	1	教務担当の教務部と総務部学務課、財務担当の総務部総務課がそれぞれ整備されている。
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。	4	3	2	1	地域自治会への積極的参加、教育課程編成委員会等を通じて、業界や地域社会へのコンプライアンス体制が整備されている。 【教職員アンケート 質問11 3.0】(3.3)
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	4	3	2	1	教育課程編成委員会、学校ホームページや、学生募集活動におけるガイダンスやオープンキャンパスなどを通じて、積極的に教育活動等を外部に対して情報公開している。求められている内容について、可能な限りの手段で積極的に外部への情報公開をしている。 【教職員アンケート 質問12 3.4】(3.2)
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	4	3	2	1	従来から学校内情報システムのネットワークが整備されていたが、現在、より機能を充実させた自社開発の新システムがほぼ完成し、運用を始めている。従来のシステムに比べて、さらに有効に機能している。 【教職員アンケート 質問13 2.4】(2.8)

①課題

「業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか」について悪化している。
「情報システム化等による業務の効率化が図られているか」について悪化している。

②今後の改善方策

教育課程編成委員会や外部との交流時に議題に取り上げ、開かれた学校を目指す。
委員会活動を見直し、共有化の仕組みや業務効率を議案に取り上げ改善を図る。

③特記事項

特になし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(3) 教育活動

評価項目	適切: 4, ほぼ適切: 3, やや不適切: 2, 不適切: 1				
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。	4	3	2	1	本校の教育理念に基づき、関連業界とも連携しながら社会に役立つ人材の育成に向けて、実践的な職業教育を意識して教育課程の編成と実施が実行されている。
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	4	3	2	1	養成施設指定規則に基づき修業年限や学習時間、目標とする到達レベルが明確にされている。
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか。	4	3	2	1	養成施設指定規則に基づき体系的なカリキュラム編成を行っている。
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4	3	2	1	教育課程編成委員会等を通じてより実践に近い形での教育が行われるよう工夫に努めている。 【教職員アンケート 質問17 3.1】(2.8)
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか。	4	3	2	1	臨床実習や介護実習を通して、産学連携による実践的な職業教育がなされている。
・授業評価の実施・評価体制はあるか。	4	3	2	1	前期と後期の終わりに、すべてのクラスで授業評価アンケートを実施し、アンケート結果を集計し、学校自己評価の評価材料としている。
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか。	4	3	2	1	専門課程はいずれも職業実践専門課程として認可を受けており、教育課程編成委員会およびその分科会も開き、外部評価を受けている。
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	4	3	2	1	学則および各種規程に基づき、成績評価、単位認定、進級判定、卒業判定の基準は明確にされている。
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	4	3	2	1	養成施設指定規則に基づき、資格取得に関する指導体制、カリキュラムなどが体系的に位置づけられている。
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。	4	3	2	1	国家資格の養成施設指定規則に則り、適切な資格要件はもちろん、臨床指導力も優れた教員を確保している。 【教職員アンケート 質問23 2.7】(2.6)
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか。	4	3	2	1	教員の一部は、関連業界との連携を深め実践的な知識と技術を維持するように、臨床現場も業務の中に組み込みながら、教育業務とのバランスをとっている。関連業界とは教育課程編成委員会や学校関係者評価委員会などを通じて、定期的に現場と学校教員との意識や知識の共有を図っている。
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか。	4	3	2	1	教員が関連の主要な学会や研修会に参加して、研鑽を積む取り組みをしている。また、新任教職員に対して、全般的な組織理解や指導力向上のための研修を実施している。
・職員の能力開発のための研修等が行われているか。	4	3	2	1	毎年年に3回全職員による教職員研修会を開催した。その他、必要に応じて教職員を選び適宜、外部の研修に参加させている。

①課題

資格取得等に関する指導体制が成果に繋ぐことができていない。
職業実践専門課程に関するより一層の取組みが必要である。

②今後の改善方策

資格取得に向けた内面的動機付けなど、低学年から指導体制を見直し、学生毎に個別指導を実施していく。
また、教育課程編成委員会を通して、議題の深堀を迫及する。
会議で提案された事項は、遂行し次回の会議時にフィードバックを行う。

特になし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(4) 学修成果

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・就職率の向上が図られているか。	4	3	2	1	業界の信頼もいただき、就職率は各学科とも毎年、100%と高い水準が維持されている。
・資格取得率の向上が図られているか。	4	3	2	1	資格取得率の向上は図られている。国家資格試験の合格率は、全体的に全国平均以上の結果である。 【教職員アンケート 質問28 3.2】(3.2) 【学生アンケート 質問3 3.2】(3.1)
・退学率の低減が図られているか。	4	3	2	1	問題を抱える学生およびその家族とは頻りに面談を行い、退学率の低減に努めている。 【教職員アンケート 質問29 2.8】(2.8) 【学生アンケート 質問4 2.7】(2.8)
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。	4	3	2	1	卒業生の業界での活躍の情報を在校生に周知し、学習意欲の向上にある程度役立っている。
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4	3	2	1	同門会組織が充実して、卒業生の体験を聞く機会をもっている。同窓会組織のない学科でも、外部講師による講習会を実施の際は、卒業生も広く呼びかけ、キャリア形成の促進に努めている。 【教職員アンケート 質問31 2.6】(2.7) 【学生アンケート 質問6 2.6】(2.7)

①課題

年間1回以上の卒後教育は実施できているが、卒業生への関りが薄い。

②今後の改善方策

卒後教育については、①研修②つながり作り③募集広報を狙いとして計画的に実施する。
また、引き続き、広報募集媒体においても、卒業生の活躍を取り上げキャリア形成を促していく。

③特記事項

特になし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(5) 学生支援

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか。	4	3	2	1	関係企業に呼びかけ校内で就職説明会を開くなど、在校生の就職活動を支援している。また、卒業後も学園グループの人材紹介事業会社を通じて就職活動の支援に努めている。 【教職員アンケート 質問32 3.3】(3.0) 【学生アンケート 質問7 2.9】(2.9)
・学生相談に関する体制は整備されているか。	4	3	2	1	クラス担任を通じた相談、心理カウンセラー窓口を通じた相談等、複数の相談窓口を整備している。 【教職員アンケート 質問33 3.2】(3.2) 【学生アンケート 質問8 3.0】(2.9)
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。	4	3	2	1	私立専門学校授業料等軽減補助金(高等教育無償化)機関認定を受けている。また、各種奨学金申請及び採用にかかわる手続きの支援を積極的に行い、並行して経済的状況に応じた校納金分納の相談にも応じている。併せて、今年度は新型コロナに関する各種支援制度の活用を積極的に進め学生支援を実施している。
・学生の健康管理を担う体制はあるか。	4	3	2	1	定期的な健康診断はもちろん、常勤看護師を中心とした衛生管理、生活指導委員会を中心とした安全・衛生指導を通じて、学生の健康管理の指導を徹底している。 【教職員アンケート 質問35 3.1】(3.1) 【学生アンケート 質問10 2.8】(2.8)
・課外活動に対する支援体制は整備されているか。	4	3	2	1	支援制度により学生団体活動が整備されていて、有効に機能している。 【教職員アンケート 質問36 3.0】(2.6) 【学生アンケート 質問11 2.9】(2.8)
・学生の生活環境への支援は行われているか。	4	3	2	1	遠隔地からの通学者の支援を行っている。特に島原地区からは往復のスクールバスを運行している。また、最寄の駅から学校へのスクールバスを運行し通学への支援を行っている。留学生寮の設置及び整備を進めている。 【教職員アンケート 質問37 2.8】(2.5) 【学生アンケート 質問12 2.8】(2.8)
・保護者と適切に連携しているか。	4	3	2	1	入学前からの面談、入学後の保護者説明会、成績状況に応じた適宜の保護者面談等を通じて、保護者との連携を重視している。 【教職員アンケート 質問38 3.0】(3.1) 【学生アンケート 質問13 3.0】(3.0) 平均 2.87(2.86)
・卒業生への支援体制はあるか。	4	3	2	1	不定期ながら、主に卒業生を対象に上級の専門知識や技能の公開講座を開いている。また、卒業生に対しても、就職や転職の情報交換の場を提供し、卒業後の支援にも努めている。(今年度は新型コロナのため実施していない) 【教職員アンケート 質問39 2.5】(2.5) 【学生アンケート 質問14 2.8】(2.8)
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	4	3	2	1	学校が高台中腹にあり、通学に若干負担があるため、働いている社会人が多い夜間部の学生には、校内への車の乗入れを許可制にしている。また、最寄り駅に、迎いのスクールバスを出している。 【教職員アンケート 質問40 3.0】(2.8) 【学生アンケート 質問15 2.8】(2.8)
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか。	4	3	2	1	高校でのガイダンス授業に加え、高校の要望に応え正規の時間割での定期的な出前授業を実施している。 【教職員アンケート 質問41 3.0】(2.9)

①課題

学生の就職支援体制については改善している。
一方で、早期離職や就職辞退など新たな課題が生まれており、就職先との連携が必要である。

②今後の改善方策

バイザー会議や実習地訪問にて意見交換を行い連携を図る。
実技授業を臨床の現場に近似させ、学生生活から職業意識をつける。

③特記事項

特になし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(6) 教育環境

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1			
・施設・設備は, 教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか。	4 (3) 2 1	施設基準は満たしており, なおかつ教室および共有区域などはスペースを確保している。備品の一部には開校以来の物もあり, 老朽化しつつあるものもあるが, 教育上の支障がないよう, 備品管理委員会が中心となって適時, 更新している。		
・学内外の実習施設, インターンシップ, 海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	4 (3) 2 1	学外の必要な臨床実習施設は確保している。 【教職員アンケート 質問43 3.0】(2.8) 【学生アンケート 質問17 3.0】(2.9)		
・防災に対する体制は整備されているか。	(4) 3 2 1	防災訓練は最低年1回は全校で実施している。各設備の防災責任者が定められている。毎年度, 防災組織の指示系統が更新されている。 【教職員アンケート 質問44 3.0】(3.3) 【学生アンケート 質問18 3.1】(2.9)		

①課題

自習スペースが不足している。

②今後の改善方策

ココガクを有用な自習スペースとして、使用方法の改善を行う。
放課後の空き教室を使用し、施設の有効活用を行う。

③特記事項

3. 評価項目の達成及び取組状況

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・学生募集活動は、適正に行われているか。	4	3	2	1	高校新卒者の募集にあたって、入学試験を10月以降に実施しているが、出願については県の専門学校各種学校連合会での取り決めに沿う必要がある。その他、学生募集は適正に行われている。 【教職員アンケート 質問45 3.3】(3.2)
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。	4	3	2	1	学生募集活動において、卒業生の就職率、資格試験の合格率、退学率など、正確に伝えられている。 【教職員アンケート 質問46 3.4】(3.3)
・学納金は妥当なものとなっているか。	4	3	2	1	本校の学納金は、同分野の他の学校の平均的な水準と同等である。 【教職員アンケート 質問47 3.3】(3.1) 【学生アンケート 質問19 2.8(2.8), 質問20 2.7(2.8)】

①課題

「学納金が妥当なものになっているか」について、学生アンケートが悪化している。

②今後の改善方策

本校の学費その他必要経費(預り金)は他校と比較して相対的に安価であり、学費に見合うサービスが不足しており、教育成果を向上させるための取組を行う。また、学生の採用者が急増している「国の高等教育修学支援新制度(無償化)」など、各種減免制度の表記も含めて、学納金の案内について見直しを行う。

③特記事項

特になし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(8) 財務

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・中期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。	4	3	2	1	少子高齢化の中、入学者数の確保のため学科等の教育内容の刷新を行うとともに、経費の圧縮等で財務基盤の安定化を図っている。
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	4	3	2	1	予算作成に際して、理事長査定を実施し、適切な予算管理を行っている。
・財務について会計監査が適性に行われているか。	4	3	2	1	適時、内部監査を実施している。
・財務情報公開の体制整備はできているか。	4	3	2	1	HPでの情報公開等しっかりと対応できている。

①課題

入学者の減少に加え、退学者数が増し、財務状況は相対的に悪化する。

②今後の改善方策

募集活動では、入学者を落としている学科については新たなアクションを計画的に実行する。
退学者防止では、特に新入生の導入期対策を実行する。

③特記事項

特になし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・法令, 専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。	4	3	2	1	学校教育法, 養成施設指定規則等の法令に従った適正な運営がなされており, 申請書, 届出書, 学校運営に係る記録等は確実に保管されている。国や県の監督部署の指導調査で指摘された事項は改善されている。
・個人情報に関し, その保護のための対策がとられているか。	4	3	2	1	学生個人調書等の個人記録は施錠できるキャビネットに保管して部外者のアクセスを防止すると共に, 情報の持ち出しを禁じている。全職員を通じて, 個人情報管理意識の向上に努めている。
・自己評価の実施と問題点の改善を図っているか。	4	3	2	1	学校自己評価委員会の下, 各項目に対して, 自己評価を実施し, 各部署, 学科でそれぞれの問題点は具体的に把握し新委員会による横断的な点検と改善も併せて推進している。
・自己評価結果を公開しているか。	4	3	2	1	自己評価結果は学校ホームページ上で公開している。

①課題

個人情報のセキュリティについて課題が残る。

②今後の改善方策

個人情報保護について再度必要性及び制度趣旨を周知し管理していく。
学科学務担当者研修を継続して行い, 基本となる法制度の理解から日々の業務につなげていく。

③特記事項

特になし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1	
<p>・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。</p>	<p>4 3 2 1</p>	<p>外部講師の講習会等で学校の教育設備を利用していただいたり、学生の地域ボランティア活動や、学校設備の地域自治会への利用、災害予防のための一時避難場所等の提供を行っている。</p>
<p>・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。</p>	<p>4 3 2 1</p>	<p>ボランティア募集情報を全学生にも周知し、地域ボランティア依頼の受入れ、実施のシステムを構築している。学校を通じたボランティア募集による活動は、必要に応じて教員も引率を行い、把握している。 【教職員アンケート 質問57 3.3】(3.0) 【学生アンケート 質問21 3.0】(2.8)</p>
<p>・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか。</p>	<p>4 3 2 1</p>	<p>職業訓練校からの委託を受けて受講者の教育を積極的に実施している。健康講座など一般向け講座も独自に企画し地域の自治会で開催しており、成果は参加者アンケートを取り、評価されている。受託事業の管理と報告は適性になされている。</p>

①課題

トレーナー活動「ココサポ」を中心に、教職員学生ともにボランティア意識は高くなっている。しかし、活動学科は限られており、今後はさらに学校として一体となった活動ができるかが課題である。

②今後の改善方策

活動学科を増加し、参加しやすい環境づくりを図る。
外部施設や企業と連携し、ボランティアやトレーナー活動の充実を図る。

③特記事項

3. 評価項目の達成及び取組状況

(11) 国際交流

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか。	4	3	2	1	外国人留学生が資格取得可能な学科については、留学生の受入れを積極的に行っている。資格取得学科に進学が可能となる日本語科も平成30年度から設置している。 【教職員アンケート 質問59 3.3】(3.0)
・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか。	4	3	2	1	外国人留学生の受入れに関し、専門の職員を配し、現地での慎重な審査を行ったうえで適切な入国管理手続きを行っている。在校生については日々の記録を整備し、適切な在籍管理を行っている。 【教職員アンケート 質問60 3.2】(3.1)
・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか。	4	3	2	1	留学生担当の職員を配するほか、学科を横断した教員による留学生の学習、生活指導担当の委員会を作り、全校をあげての組織的な取り組みを行っている。
・学習成果が国内外で評価される取組を取っているか。	4	3	2	1	海外向けサイトの登録の他情報配信している。

①課題

留学生の就労管理・生活支援や健康管理については一定の成果が出ているが、進路開拓について課題が残る。

②今後の改善方策

進学先の増加のために、施設見学や企業訪問に努める。
留学生担当者会議の充実を図り、学修・生活指導に改善を図る。

③特記事項

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

令和5年度重点目標に対する総括

(1) 授業の充実と国家試験合格率及び就職率の100%達成

- ①本年度は、正規教員の退職者は0名で力量も安定しており、新任教員2名も授業に関しては予想以上の力を発揮してくれていると評価している。授業を含めた学校の総合的な力量アップを図りたい。
- ②学生には、日頃から「すべては自分事」と指導し、「与えられる学び」から「自己の意思ある学び」へと指導してきた。自学自習の習慣化は、今後、学校挙げて取り組むべき課題として残った。
- ③国家試験合格率は、学科のばらつきが見られ、満足の行く結果とは言えなかった。
各学科の合格率は、理学療法科95.2%、介護福祉科54.5%(日本人84.2%、留学生14.3%)、スポーツ柔整科100%、スポーツ鍼灸科84.6%、そして日本語科のJLPT合格率は56.6%であった。
今年度は、前年度にコロナ禍での最上級生の国家試験対応に追われて低学年段階の指導に課題が残ったことも一因と反省している。
- ④本年度の就職率は、令和6年3月15日現在で、理学療法科75%、介護福祉科90%(日本人84.2%、留学生100%)、スポーツ柔整科88.2%、スポーツ鍼灸科76.9%、日本語科90%(進学100%、就職80%)であった。また、県内就職率は61.6%であった。
- ⑤各学科とも「国家試験等年間指導計画」に基づいて計画的・組織的な指導を推進した。また、模擬試験ごと各学科会、学科長ヒヤリング、補講等による基礎学力向上対策、定期的な個別面談等実施したが、更に踏み込んだ指導が必要である。

(2) 社会人基礎力を身につけさせ、自立する職業人・社会人の育成

- ①今年度も「各学科の専門力と人間としての総合力」を育成することを教育目標に掲げて、「真の職業人」を育成することを目指す教育を推進してきた。
 - お客様第一の考え方ができる。
 - 「匠の教育」を推進する。
 - 人に納得してもらえる専門知識・技術を育む。
 - 人に尊敬してもらえる人徳を磨く。
- ②日常的な機会や行事・ボランティア活動等を通して、挨拶、礼儀、マナー、態度、心配り、気配り、気遣い等、専門学校は社会に繋がる最終教育機関と意識して橋渡し教育を推進したことの意義は大きいと思っている。
- ③実際に現場で経営をされている各学科の教育課程編成委員からも、勤勉な勤務態度は当然であるが、豊かな人間力、気配りや献身的な姿勢、主体的な学び等の要請も強い。今後とも、専門知識・技術の修得と豊かな人間力とを指導の要に置いた教育を推進する。
- ④本年度の目玉事業は、本校独自の「卒後教育」の実施であった。
各学科が研修内容を企画し、卒業生のスキルアップ支援、交流、広報活動等がねらいであったが、在校生・教職員の参加もあって、大変、好評であった。

(3) 留学生教育の充実と基本的な生活習慣の確立

- ①本校の留学生の割合は、総学生数の32.9%に当たる114名である。
この数年間、「留学生教育の質の向上」と「JLPT(日本語能力試験)4級以上全員合格」を目標に掲げて取り組んできた。
長崎校の令和5年12月3日実施のJLPT結果は、次のとおりであった。
 - JLPT結果一受験者数53名
 - N2一受験者2名、合格者2名(合格率100%)
 - N3一受験者18名、合格者9名(合格率50%)
 - N4一受験者33名、合格者19名(合格率58%)今後は、現在の学力別学級編成等に加えて、「基礎学力の定着」、「読解力の養成」、「家庭学習時間の確保」等、指導の工夫が必要である。
- ②基本的な生活習慣に関しては、今年度は、特別な問題はなかった。
2ヶ月に1回全留学生を対象に実施している「生活の記録」と「留学生実態アンケート」結果に基づいた個別面談等の実施と学科職員のきめ細かな指導の成果である。オーバーワーク防止、学習支援、生活支援、経済支援等を通じての留学生と教職員の信頼関係の構築にも繋がっている。また、自治会や地域住民の理解もいただいております。地域行事やボランティア活動等の参加機会を多くいただくことができた。
- ③就職・進学については、進路達成率90%弱とは言え、コロナ禍明けの本年度は、主に、次のような課題が残った。
 - 留学生数増加による専門学校入試競争率上昇と募集の早期締め切りへの対応
 - 大学入試改革による関東圏の専門学校の留学生入試の早期化
 - 留学生数増加と進路の多様化一進路指導の困難さ
 - キャリア教育の実施

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

令和5年度重点目標に対する総括

(4)「個人自己評価」と「学校自己評価」による人材育成と学校活性化

- ①学園挙げて従来からの「学校自己評価」(年2回)に加えて、本校独自の「個人自己評価」(令和4年度から実施)を実施している。個々の教職員個人の取り組み目標を掲げているだけに業務推進や事業推進等へのスキルアップに繋がっている。
- ②本年度の「学校自己評価」に見られた特徴としては、次のようなことが顕著であった。
(主な特徴)
 - 教育課程編成委員会等の助言もあり、実践に近い形での教育の推進ができた。
 - 養成校指定規則に基づいた学校経営ができているという評価を得ている。
 - 退学者は、昨年度比-2名であったが、本年度の課題として残った。
 - 「卒後教育」の実施による卒業生支援の強化が必要である。
 - 教職員の研修機会を提供し、更なる資質向上を図る。
- ③更なる学校活性化に繋いで行くためには、学校評価結果をPDCAサイクル化していくことが大事である。評価結果の「学科会」での検討、全職員による検討、外部委員を含めた「学校自己評価委員会」での検討、更には、「対策会議」を開催して、成果を意図した具体的な取り組みに繋いでいくことにしている。

(5)学校体制として取り組む学生募集-130名以上の学生確保

- ①令和5年3月20日現在で、定員140名に対しての入学予定者は107名である。昨年度同時期比では、10名減である。
- ②学科ごとに見ると、理学療法科28名、介護福祉科41名、スポーツ柔整科15名、スポーツ鍼灸科23名である。入学予定者107名中、高校生が51名、社会人21名、職業訓練生4名、留学生が31名である。また、日本語科は、令和6年4月入学生が58名の予定である。
学科別では、この数年、スポーツ柔整科の減少傾向が課題である。
- ③学生募集は、広報課を中心にオープンキャンパス、ガイダンス、高校訪問等学校挙げて全職員で取り組んだ。職員研修会や職員会議等でも随時募集状況報告をして、情報共有と共通理解をしながら進めた意義はあった。
- ④課題は、入学生確保のみならず、退学者を出さない対応が求められる。本年度は、理学療法科6名、スポーツ柔整科6名、スポーツ鍼灸科1名、介護福祉科0名の計13名(昨年度比-2名)の退学者であった。
その主な理由は、「進路変更」(6名)や、「学業不振」、「交友関係」であった。
日頃の教育活動の中では勿論のこと、学校カウンセラー等の支援も得て、学生の相談体制・支援体制を強化する必要がある。

1. 学校の教育目標 令和6年度

- 1 ビジョン
地域の医療・福祉を包括的に支援できる組織になる
- 2 学校経営スローガン
各学科の「専門力を含めた人間としての総合力の育成」
- 3 重点教育目標
 - (1)授業の充実と国家試験合格率及び就職率の100%の達成
 - (2)社会人基礎力を身につけた「自立した職業人」の育成
 - (3)留学生教育の充実と進路開拓
 - (4)「個人自己評価」と「学校自己評価」による人材育成と学校活性化
 - (5)学科の主体性も活かした全職員による学生募集－130名以上の学生確保
- 4 具体的な対策
 - (1)「心のこもった誠実な教育」と「学びの主体性」の確立
 - (2)自立する職業人への準備教育の徹底
 - (3)退学者・不登校生の減少対策の推進
 - (4)国家試験・進路指導の充実
 - (5)留学生教育の質の向上
 - (6)「個人自己評価」の導入による学校活性化
 - (7)学科の主体性を活かした「攻めの学生募集」の推進－130名以上の学生募集
- 5 環境美化と地域社会等との豊かな関係づくり
 - (1)環境美化活動の推進と心のこもったサービスの提供
 - (2)学園ビジョン「地域の医療・福祉を包括的に支援できる組織になる」の具現化
 - (3)地域社会や関係各校、機関、施設等との連携強化

2. 令和6年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- (1)「心のこもった誠実な教育」と「学びの主体性」の確立
 - ア 「学ぶ」、「解る」、「できる」、「身につく」の段階を意識した「わかる授業」の展開
 - イ 「主体的な学び」に繋ぐ、各学年に応じた具体的な指導の推進
- (2)自立する職業人への準備教育の推進
 - ア 社会人基礎力の育成と自律から自立に向けた人間教育
 - イ 学びがい、働きがい、生きがい等に繋ぐ職業的実践教育の推進
- (3)退学者・不登校生の減少対策の推進
 - ア 学生の自己肯定感を育む教育の推進と繋がり合える学級づくり
 - イ 個別面談や日常の学生理解と行き届いた誠実な指導
- (4)国家試験・進路指導の充実
 - ア 「国家試験年間指導計画」による対策推進と学科会・学科長ヒヤリング
 - イ 「全ては自分事」という意識づくりと模擬試験に取り組む事前準備の徹底
- (5)留学生教育の質の向上
 - ア 留学生の多様化への対応と学力の定着を目指す授業の実施と進路開拓
 - イ 本校独自の「生活の記録」・「留学生実態アンケート」と事後の個別面談等による学習支援・生活支援・経済支援
- (6)「個人自己評価」導入による学校活性化
 - ア 学科・課・学校等組織として機能する学校づくりと「報告・連絡・相談」の徹底
 - イ 「個人自己評価」・「学校自己評価」とPDCAによる職員の資質向上と学校活性化の推進
- (7)「攻めの学生募集」の推進－130名以上の学生募集
 - ア 学科の主体性を活かした全職員で取り組む学生募集の推進
 - イ 「教育の質」と「実績」で学生募集ができる学校づくり